

日本デジタル教科書学会



ニュースレター No.20

2021.10

編集：日本デジタル教科書学会 広報委員会
(news@js-dt.jp)

発行：日本デジタル教科書学会 事務局

〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町

京都大学教育学研究科内

HP：http://js-dt.jp/ e-mail：office@js-dt.jp

「実践研究論文化支援プロジェクト」参加者募集について

GIGA スクール構想等により、ICT 活用教育の優れた実践が日々生み出されています。実践を一つの学術研究と考えた場合、論理的で説得的な論が十分に展開され、査読を経た学術論文として公開されることは、本領域の研究の発展にとって重要であると考えられます。しかし、実践者は必ずしも実践効果の定量的評価や論文執筆の専門家ではないため、「学術研究として実践を公開して貢献したいが、論文執筆の方法がわからない」という方もいらっしゃると思います。

日本デジタル教科書学会では、優れた実践を学術研究として積極的に公開することで、ICT 活用教育に貢献したいと考えています。

本学会では、実践者から優れた実践を公募し、実践効果の定量的評価や論文執筆の専門家である本学会所属の研究者が協力することで、査読論文としての公開を支援するプロジェクトをはじめます。本学会編集委員会と連携し、本プロジェクトの特集論文として、本学会の学会誌「デジタル教科書研究」への掲載を目指します。特に、優れた実践を学術研究として社会に公開したいと考える、熱意ある若手実践者を募集します。

詳しくは Web ページをご覧ください。 http://js-dt.jp/supprt_project/

■ 第 10 回年次大会（京都大会）を開催致しました（御礼）

【JSDT 第 10 回年次大会（京都大会）オンライン開催】

8 月 21 日（土）、22 日（日）開催の日本デジタル教科書学会第 10 回年次大会（オンライン開催）には、約 300 名の皆様からご参加をいただきました。また、25 件のすばらしい研究発表をしていただきました。

1 日目の午後は、信州大学名誉教授の東原義訓先生から「デジタル教科書・教材に関する最新情報—国の動向と東原の開発・実践研究を中心に—」というテーマで基調講演をしていただきました。90 分の時間があっという間でした。「明治維新で学校を創設したことと同じように、令和維新ではデジタル教科書環境を構築することが必要である。」とのお言葉は、大変印象深かったです。そのくらい大きな変革の時であることを強く認識しました。また、「学習者用デジタル教科書は、教える道具ではない、学ぶ道具である。」とのお言葉も、強く印象に残りました。私たちが留意すべき点であると考えます。

2 日目の午後は、放送大学教授の中川一史先生、東北大学大学院教授の堀田龍也先生による第 10 回記念大会特別対談でした。時代の変化や世界の変化について具体例を基に説明していただいた上での、GIGA スクール構想は時代の変化に伴う学びの変化に対応するためのインフラであるという堀田先生のお話からは、なぜ今 GIGA スクール構想なのかがよく分かりました。また、GIGA スクール構想は、これまでの授業方法、教科書の位置付け、教師の役割、学校のあり方、さらに、児童生徒にとってのツールとの関わりを再構築するきっかけや営みであるという中川先生のお話は、とても大切な視点と感じました。そして、地域ごとの ICT 整備の格差等の問題では、お二人の先生からの様々なお話により、具体的な要因等を考えることができました。最後にお二人の先生からいただいた本学会に対するデジタル教科書の研究等に関するアドバイスやエールは、今後、学会で取り組むべき方向を示していただくものでした。

本大会における若手優秀賞は、大熊太郎氏（昭和女子大学附属昭和小学校）の「画像情報共有アプリケーションとデジタル教科書を併用し児童の考えを視覚化して表現した授業実践報告」でした。また、若手奨励賞は 2 件でした。大坪優太氏（茨城大学大学院）の「1 人 1 台端末活用に関する小学校教員が考える阻害要因及び改善法の提案」と、小池翔太氏（東京学芸大学附属小金井小学校）の「小学校第 5 学年社会科における学習者用デジタル教科書を活用した授業デザインの実践的検討」でした。デジタル教科書を活用した具体的な授業実践、1 人 1 台端末

の活用に関わる研究等，今必要な研究に意欲的に取り組み，素晴らしい成果を出していると感じました。

前大会，本大会と京都大学に本部を置き，オンライン開催となりましたが，次年度こそは対面発表ができることを願い，次回も京都大会を予定しています。

日本デジタル教科書学会 前会長

長谷川 春生

第10回年次大会（京都大会）大会実行委員長

広瀬 一弥

第10回年次大会（京都大会）において若手優秀賞，若手奨励賞を授与いたしました

本学会では、若手の実践者や研究者を発掘し、その活動を後押ししようと、年次大会において若手優秀賞，若手奨励賞の授与を行っています。

この賞は、35歳以下の筆頭者を対象に年次大会へ早期締切までに投稿された研究の中から、特に優れた研究を行った方に対して贈られます。

受賞者の発表は、大会初日に行われ、坂田編集委員長と島田副会長から講評がありました。

受賞された皆様、おめでとうございます！！

若手優秀賞

受賞者：大熊 太郎 氏（昭和女子大学附属昭和小学校）

画像情報共有アプリケーションとデジタル教科書を併用し児童の考えを視覚化して表現した授業実践報告

若手奨励賞

受賞者：大坪 優太 氏（茨城大学大学院）

1人1台端末活用に関する小学校教員が考える阻害要因及び改善法の提案

受賞者：小池 翔太 氏（東京学芸大学附属小金井小学校）

小学校第5学年社会科における学習者用デジタル教科書を活用した授業デザインの実践的検討

これらの賞の選考方法は次のとおりです。

- ・学会理事から5名の選考委員を選出し、審査を行います。
- ・発表予稿に対して「新規性」「論理性」「有用性」「将来性」の4観点について、それぞれ5点満点で選考委員が採点します。採点時には、著者名・所属を除いた予稿を用います。
- ・上記の合計点の上位3名を受賞候補者とします。
- ・大会初日の午前に受賞候補発表セッションを設け、候補者にご発表いただきます。その後、選考委員の合議により、最も優れていると考えた候補者に「若手優秀賞」を、若手優秀賞に続き優れていると考えた候補者に「若手奨励賞」を授与します。

2021年度理事体制のご報告

2021年8月22日の総会において報告されました2021年度の理事体制について、ご報告をさせていただきます。

会 長	広瀬 一弥（亀岡市みらい教育リサーチセンター）
副会長	片山 敏郎（新潟市教育委員会）
	坂田 陽子（愛知淑徳大学）

■研究委員会

委 員 長	長谷川 春生（富山大学大学院）
副委員長	佐藤 和紀（信州大学教育学部）
委 員	岩山 直樹（富山大学人間発達科学部附属小学校）
（50音順）	杉本 真樹（国際医療福祉大学大学院）
	竹中 章勝（奈良女子大学 金城学院大学 桃山学院大学）
	松下 慶太（関西大学）

■編集委員会

委員長	島田 英昭（信州大学学術研究院教育学系）
副委員長	坂田 陽子（愛知淑徳大学）
委員	市原 靖士（大分大学教育福祉科学部）
（50音順）	寺尾 敦（青山学院大学）
	森下 孟（信州大学学術研究院教育学系）

■広報委員会

委員長	稲田 健実（福島県立平支援学校）
副委員長	小林 祐紀（茨城大学）
委員	一戸 信哉（敬和学園大学）
（50音順）	大関 正人（新潟市立浜浦小学校）
	加藤 悦雄（大妻中学校高等学校）
	反田 任（同志社中学校・高等学校）
	平本 将司（広島市矢野公民館）
	水越 綾（杉野服飾大学）
	足立 賢治（島根県情報教育研究会）

■事務局

事務局長	久富 望（京都大学教育学研究科）
副事務局長	杉山 一郎（十日町市立馬場小学校）
事務局員	上田 昌史（京都産業大学）
（50音順）	大滝 徳久（新潟市立総合教育センター）
	後藤 正樹（早稲田大学教育学研究科）

■大会実行委員会

実行委員長	反田 任（同志社中学校・高等学校）
事務局長	久富 望（京都大学教育学研究科）
委員	長谷川 春生（富山大学大学院）
大会アドバイザー	上田 昌史（京都産業大学）

■監事

	反田 任（同志社中学校・高等学校）
	林 俊行（新潟市立亀田東小学校）

■顧問（50音順）

	岩居 弘樹（大阪大学）
--	-------------

■ICT CONNECT 21 担当

担当理事	高瀬 浩之（松戸市立和名ヶ谷中学校）
------	--------------------

■ 会長就任のご挨拶

この度の総会にて、前会長長谷川春生先生の後任として、会長に就任いたしました。大役を仰せつかり、身の引き締まる思いでございます。前会長におかれましては、4年に渡る任期の中で、行動の早さ、コロナ対応をはじめさまざまな課題への確実な対応など、堅実なリーダーシップなどにお力を発揮していただきました。これまでの方針を引き継ぎ、微力ではありますが本学会の更なる発展を目指し努力していきたくと思います。どうぞよろしくお願い致します。現在、我が国においては、GIGA スクール構想、学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業など、急速に環境が整いつつあり、デジタル教科書も活用のフェーズに差し掛かりました。小・中・高等学校、特別支援学校等の教育現場の教員が多く参加していることも本学会の特徴であり、現場の教員同士による実践や研究成果の共有の場としてさらに充実した取り組みを進めていきたくと考えています。また、これまでから教育現場の教員と大学等の研究者との実践や研究成果の共有についても大切にしてきました。本年度はさらに実践者と研究者を結びつきを強め、大きな役割を果たしていきたくと考えています。当学会の会員のみならずのフィールドである「教育」は、この数年大きく変化をしてきたもののこれからもさらなる変化が見込まれます。設立11年目を迎える本学会においても革新を続けながら更なる充実を図りたいと考えています。会員の皆様のご理解とご協力を何とぞ宜しくお願い申し上げます。

日本デジタル教科書学会 会長 広瀬 一弥

■ 会長退任のご報告

2021年8月に開催されました第10回年次大会（オンライン開催）における総会で、会長を退任いたしました。会則において任期は1期3年とされているところ、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策等が急務となり、昨年度の総会で1年の延長をお認めいただき、4年間、会長をさせていただきました。

多くの皆様からご支援とご協力をいただき、なんとか会長の任期を終えることができました。年次大会や研究会の計画・運営に関わり、そして、参加する中で、多くの方々とつながりを持つことができ、また、発表内容からたくさんのことを学ばせていただき、大変有意義な時間でした。学会論文誌や学会広報誌の定期的な発行など、会員の皆様、理事・役員の皆様のご協力により、片山敏郎前会長が作った体制・活動をなんとか引き継ぐことができたのではないかと感じております。

任期中の年次大会では、第7回大会を富山で、第8回大会を新潟で開催することができましたが、第9回大会と第10回大会は京都での開催を目指しながら、途中でオンライン開催となりました。第11回大会こそは、京都で開催できることを期待します。しかしながら、オンライン開催をする中で、様々なノウハウの蓄積ができ、これからの年次大会や研究会開催の在り方を考えていくこともできたと思います。

今後、これからの時代にしっかりと対応した、より積極的な活動が期待される中、次期会長を広瀬一弥先生にお願いできることを大変心強く思っております。大変ありがとうございました。なお、今後も研究委員として活動に加わらせていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

長谷川 春生

■ 第11回年次大会（京都大会）の開催について

2022年の日本デジタル教科書学会(JSDT)年次大会を、京都大学の百周年時計台百周年記念ホールにて開催予定です。日程は8月20日（土）～21日（日）と予定しております。

■ 「デジタル教科書研究」投稿・審査規定の改訂について

学会誌「デジタル教科書研究」の投稿・審査規定の改訂を行いました。最も大きな改訂部分は「1 編集方針」です。論文の内容を「デジタル教科書」に限らず、「ICT活用教育全般」であることを明示しました。これまでも、本学会誌はいわゆる「教科書」のみではなく、ICT活用全般を扱ってきましたので、実態に合わせた改訂と言えます。一方、「教科書」と規定に書かれていることで、必ずしも「教科書」とは言えない研究を投稿してよいのかどうか迷うという声もあり、「ICT活用教育全般」に広げることを明示しました。改訂は2021/10/1付けで行い、学会ホームページにアップロードします。

また、2021/1/1付けでも上記と異なる変更を行いましたが、十分にアナウンスができていませんでした。遅れましたことをお詫びし、合わせてアナウンスさせていただきます。改訂部分は「9 倫理的事項」です。これまでは、研究実施や論文執筆にあたっての倫理的配慮を求める記述はありましたが、その詳細を規定していませんでした。近年は倫理的配慮が求められるケースが増加しているため、基本的な事項を明確にすることにしました。追記した部分が大きく2つあります。一つは協力者の同意を得る手続きや倫理的事項の論文中への明記等を求めたことです。もう一つは利益相反の問題で、たとえば企業等との共同研究において資金提供の関係を明確にすること等を求めるものです。

デジタル教科書研究では、投稿論文を随時募集しています。特に、ICT活用教育に関わる実践研究をお待ちしています。GIGAスクール構想の中で、素晴らしい実践が数多く生み出されています。これらの実践を学術的な観点からまとめ、知見を蓄積していくことができればと考えています。もちろん、学術的要素の強い従来型研究も歓迎です。

一緒に知の蓄積に貢献しませんか？ご投稿、お待ちしております。

編集委員長 島田 英昭